

皆本中隊長直誥ニ依リ判明セル其右、真相ハ左記次第ナル

昭和十一年八月廿日豊浜、幹部候補生隊ヲ通知依リ遙ニ面會行々其、朝己出発ニ
面會ニ事カ出来ナカドコハ小豆島ニル船舶特別幹部候補生隊、教育、多ク任命
方々多ク小豆島ニ於テ生活ハ詳細ニ知ルコトガ出来ナカド是、若ク特幹生、指導ニ當リ、細
心性情ニ頭ガ下ル思ヒガレト云ツテ手紙ヲ寄セタコトガアタ、小豆島ハ八月廿日自出発ニ
広島縣江田島ニ着、船舶練習部ヲ解散隊ニ介隊ヲ整備ス、九月一日動員ヲ完了ニ
上挺身ヲ戰隊ヲ中隊皆本隊附トシ、九月留宇品ニ面會行々時ハ既ニ特攻隊トシテ
員ガ完了シテ居タデマタ、私達ニ面會中特攻隊デアルトモ、既ニ動員ガ出テ居ル事モ
聞カカド、然レ一郎ハ特攻隊員トシ、心中既ニ覚悟ハ決テ居タ事ト思ヒタガ、其ノ元
ヲ表ス、面會ヲ終ワデアラ

那霸港ニ到着タム、八月廿日、那覇港ニ着、八月廿日、那覇港ニ着、八月廿日、那覇港ニ着、
出来タト考ラレタガ、其ノ便リナカド、那覇港ニ着、八月廿日、那覇港ニ着、八月廿日、
ニタデアル、皆本ヤハ、復員居宅ニシテ、那覇港、大島居テ出航、時ニ見、終戦ナリ、再ビ那
ニ来テ時見タム、唯此、島居タ外ニ何物モナシ、燒野原デアル、迷懐テ居タタ、九月
ニ三時隊ハ慶良間列島渡嘉敷ニ陸タ、次デ、十月廿日渡嘉敷ニ移駐シ、茲ニ書
ハ特幹生、訓練、防空壕、南警ニ懸命、努力ガ償タ、此ノ附近、終リカ珊瑚島ニテ

ハ何モ敵ノ攻撃ニ任ズル外、術ハナカド、テアル、其ノタ、死傷者ハ比較的少シカ
大町中隊長ハ當時阿嘉島ヨリ座間味島ニ移テ居タガ、渡嘉敷ニ對シテ敵ノ攻
撃ト更ニ慶良間周辺ニテ敵艦艇ノ状況ヨリ判断シテ、刻ニ猶ラズル事ヲ傳ス、直ニ
全部隊ヲ本島ニ移シ、一帯ニ敵ヲ破ルベシ計画ヲ決心セシ、二十五日夜陰ニ乘ジ、地少佐
以下十五名ヲ引キテ、積舟ヲ以テ渡嘉敷ニ上陸、軍本部ニ到着セラレタ、本部ニ於テ渡
嘉敷全島ニ對シテ敵ノ攻撃ノ情況ヲ聴取スルト、其ノ全戰闘部員ニ對シテ、那覇本島ヲ
進マ下命セラレタケル、時既ニ二十時ヲ過テ居タデアル、尚勤務隊ノ主力、整備兵、
一部及海上勤務隊ハ渡嘉敷ニ殘留シ、敵ノ上陸ヲ逸撃スベシ事ヲ決定セラレタ、各
中隊長ハ本下令ニ依リ、海辺ニ上陸作戰ニ備ヒ、マリシ兵員並ニ整備、全兵員ニ對
シテ特攻艇ノ泛水作業ヲ命ジタケアル、此、時兵員ハ連日連夜、戦闘ニ疲勞極ニ達
シテ居カ、本島進駐ニ勇躍シ、泛水作業ヲ行ヒタルモ、種々不利條件、タテ進捗容
易トス、完了シタルハ、八月廿六日午前四時ニ及テ、西南ノ夜ハ、明ルニ時間余リ、餘
渡嘉敷タテ、沖繩本島迄ニ至リ、航路ヲ以テ航行スル時ハ、二時内乃至三時間ヲ要シ、
夜ノ明ク放シ、然モ百數十隻ノ敵艦ガ遊ズル慶良間海峡ヲ横断スル事ハ、全艇全
ヲ乘スル火ヲ見ルヨリ、炳ニシテ遂ニ討取テ變更、余儀、丁至タケアル、大町中隊長ハ

三月二十日第十一船團長大町大佐ハ中島基地隊長鈴木大佐以下副官等ヲ從ヒ那覇ヨリ
慶良間ニ於ケル作戰ノ情況視察ニ來リ四月二日一報ハ觀測ハ敵艦隊ハ早チ三月下旬恐
ラシク初日ニテトラス山ト云フモテアラタ翌日大町大佐ハ阿嘉島ヲ見テ

獲兵數ノオミ中隊ニハニミロ、晝食ヲ取テ居タ者視甲ノ兵ヨリ敵機ニテ數機ヲ
獲兵ニ認メトノ急報ガアラタ、遙カ洋上ニシテ戰艦機ハ一機ハ空ヲ獲嘉志久ノ基
地ニ來襲シタ敵機ハ投彈ニシテ其地上空ヲ旋回シテ去ルカト見ル間ニ四月二日
襲シ敵個個爆彈ヲ投下シ退去シタ、中隊ハ俄然緊張シ戰艦準備ノ位置ニ就キ
此ノ爆撃ニ依テ軍倉庫ハ火災ヲ起シ外施設ニ若テ被害ヲ受ケタ、防空壕ノ人
等ニ對シテ急據隠蔽作業ヲ開始セシタ、其ノ后ハ十余機ヲシテ戰艦機ガ來襲
シ砲彈銃撃ヲ受ケ基地設備ニ對シ被害ヲ受ケタ、三月二十日曾敵機ヨリ
機常時上陸シ來襲攻撃ヲ繼續シ獲嘉志久ノ基地設備ハ更ニ被害ヲ受
ルト昔ニ民家モ亦被害ヲ受ケ火災ヲ生シ火勢甚烈シク夜ニ至リ全島ハ慄慄ハ
況ヲ呈スルニ至リタ、是等ノタメ軍民ニ死傷者續出シ其ノ收容ハ隊ニ於テ行ハレタ
兵ハ危險ヲ冒シテ之ニ從事シテ三月二十五日ヨリハ更ニ敵ハ艦砲射撃ヲ併セテ突
進シテ來リタ、彼等ハ進軍ニシテ中隊ノ陣地ニ對シテ砲撃ヲ行ハレタ、此ノ邊ノ事情
傳達ハ兵隊ヨリ懷イテ來タ村久達ノ間ニ一部ハ非常ニ親シク心氣ガ良カタ、此ノ邊ノ事情
ヲ皆本ヤンハ村任民モ中島少尉殿ト到リテ君ニ多大ノ尊敬ヲ托ヒカテ住民ノ声ヲ聞
キシニ「私達モ中島サンノ部下ニテリタト之ノ眞ニ偽ハハルガ事ナリキト書カレテ居ラタ

若イ特幹生ハ海邊デシヨ相撲ヲトタ、其ノ相手ハイロモ一部デアラタ、特幹生ハ花壇ノ側テ故郷
ノ事ヲ語り合タモ度デアラタ、赤イ南西ノ月ヲ眺メテカラ特攻隊トシテ身ヲ國家ニ捧ゲテ居ルハ
云ヒ此ノ人達モ故郷ニハ父アリ母アリ又兄弟姉妹モアラタ、中隊ヲ離レタ獲嘉志久ノ兵ニ
互ニ胸ヲ抱キ合フテ「命ヲ知ルトノ出來又心中ニ親ヲ懷ヒ兄弟ヲ憶ヒ更ニ故郷ニ居ル
友達ノ事迄憶ニタ事デアラウ、是等若イ特攻隊員ノ語ルハ眞ナ言葉ハ、語ル者モ
聞ク者モ感動シ、裡ニ時ヲ過シタデアラウ、右日神奈川縣ノ並木実君ノ手紙ハ、多ク之等ヲ
慰メ伝ヘテラタ、伊達本島ニ收容サレテ戦友ト語ルハ獲嘉志久ニ於テ生テアリ、話題ハ、中
中島少隊長ノ身ニシテ落テテ行タ、中島サハ金ニ必ズ歸ルル氣ガスルト書カレテアラタ
十一年前ノ那覇ニ初メ空襲ガアラタ事ヲ部隊ニ報告ガマラタ、慶良間ハ未ダ戦局
ハ起ラカタ

二十一年十月十日陸軍少尉任官シタ一郎通信ハ、十月十日少尉ニシテト云テ來キ此通信
ガ最後ノモトナラデマタ

空壕ハ終テノミデヤバ、坂草が出来カコト、百迄ノ新々成成不カ出来カ、此ノ壕内、如何ナ
ル砲撃モ危険、オノ兎舎在空地、操テアトク、訓練ハ又夜間ニ於テ特別訓練カ施サ、特攻艇
ハ長々五米、突中一半突ハ分、バヤ板ヲ以テ造リ、軽少トモ、自働車、エンジンヲ据付テ
中央座席ハ二人、泉リテ、艇ノ兩側ニ二車、爆薬ヲ裝備シ、夜間敵ノ船圖ニ
潜ルヒカリ一撃ニ之ヲ撃破スルト云フ特攻戦法ヲ輸送船等ハ、船腹ニ直径十五尺、大
穴ヲ穿テ、思フ所ノ水深ニテ、テマシ、此ノ夕夜間ニ於テ訓練ハ、最も重要トモ、計近、
島嶼、如何ニ暗夜中モ其位置状況ヲ認識スル、養成ヲセテモ、是ガ要モ六
切、訓練テアトク、事ナシ、工有、自部隊ハ、三部隊、分、カ、一、中隊、南方、阿波連、カ、二、中隊、ハ
留里加波、カ、三、中隊、ハ、中央部、渡嘉志久ニ駐在シテ居タ、一、即、ハ、カ、三、中隊、(古本隊)デ、其、カ、
一、群、長、ヲ、命、セ、ラ、タ、一、個、中、隊、ハ、中、隊、長、以、下、三、名、デ、三、個、戰、闘、群、ヲ、分、一、個、戰、闘、群、ハ、群、長、
以、下、五、名、ト、ナ、テ、居、タ、中、隊、ノ、編、成、ハ、中、隊、長、一、名、戰、闘、群、長、三、名、中、隊、傳、令、二、名、各、戰、闘、群、
員、八、名、宛、三、群、ヲ、四、名、ト、ナ、テ、居、タ、
渡嘉志久ハ無人海岸トナテ居ルガ隊カ駐也、ヒカス島ノ兎舎達ハ渡嘉敷ヨリ毎日如遊
ヒ、三、米、タ、ソ、テ、一、部、等、ト、非、常、ニ、親、密、ニ、シ、テ、来、タ、小、供、達、ガ、来、ル、ト、部、落、ノ、人、達、モ、亦、集、リ、テ、来、タ、
一、部、等、ハ、兵、舎、側、海、邊、ニ、花、壇、ヲ、作、リ、テ、園、ヲ、造、リ、テ、遊、ビ、タ、リ、ト、云、フ、事、ナ、リ、

此、状、情、意、一、日、迄、期、ス、ル、下、決、シ、下、令、送、水、艇、再、陸、上、曳、揚、機、屋、ニ、テ、ナ、タ、キ、ル、
此、時、赤、松、部、隊、長、公、意、ヲ、決、シ、事、茲、ニ、至、リ、ハ、私、固、全、艇、ヲ、以、テ、ス、ル、敵、艦、艇、攻、撃、ヲ、行、セ、ン、ト、
シ、ル、モ、軍、令、未、タ、且、コ、ソ、ソ、備、方、面、ニ、任、務、中、大、部、隊、ノ、特、攻、艇、ノ、計、画、カ、果、露、路、ニ、思、
ハ、ル、コ、ト、赤、松、部、隊、長、決、心、ヲ、中、止、ス、ル、ニ、至、リ、タ、マ、タ、陸、上、曳、揚、作、業、ハ、日、出、前、完、了、シ、
音、扇、セ、ラ、レ、タ、ル、モ、兵、員、疲、勞、ト、日、出、迄、ノ、時、間、少、キ、為、進、揚、セ、ズ、僅、カ、カ、三、中、隊、(古、本、隊、)ニ、
一、於、テ、二、艇、ヲ、曳、揚、シ、タ、ル、ニ、過、ス、日、出、迫、ル、ニ、及、ビ、大、町、艇、團、長、ハ、最、早、萬、策、施、ス、ニ、術、方、會、
身、艇、ニ、對、シ、最、后、ノ、處、決、自、決、ス、キ、事、ヲ、命、ズ、ル、ニ、至、リ、タ、ケ、レ、バ、特、攻、隊、ノ、若、キ、純、真、ノ、人、達、
ハ、自、島、出、発、時、ヨリ、艇、ト、死、生、ヲ、共、ニ、ス、ル、事、ヲ、誓、シ、タ、ケ、レ、バ、整、備、ノ、兵、亦、生、命、ヲ、賭、シ、テ、奮、
闘、シ、テ、来、タ、ケ、レ、バ、敵、ノ、船、圖、ヲ、目、前、ニ、見、ク、之、ニ、對、テ、ラ、カ、ル、事、モ、ナ、ク、自、決、ス、ル、ト、ハ、到、底、ニ、得、
ハ、キ、事、ナ、リ、ハ、ナ、カ、タ、兵、達、ハ、艇、内、ニ、男、泣、キ、シ、泣、イ、タ、然、モ、艇、ト、死、ヲ、共、ニ、ス、キ、事、ヲ、願、フ、夕、夜、ハ、既、
ニ、明、ケ、ト、シ、テ、東、天、ハ、紅、ヲ、帶、ビ、テ、来、タ、艇、團、長、ハ、再、ビ、決、意、シ、テ、艇、ノ、自、決、ヲ、命、令、シ、タ、各、中、
隊、長、ハ、艇、内、ニ、告、テ、説、得、シ、事、茲、ニ、至、リ、テ、八、葉、止、ム、ヲ、得、ザ、ル、コ、ト、ヲ、認、テ、六、十、餘、隻、ノ、特、攻、
艇、ハ、次、々、ト、渡、嘉、志、久、ヲ、去、リ、テ、自、決、ス、ル、手、ニ、ヨ、リ、テ、消、シ、テ、行、ク、タ、ケ、レ、バ、敗、者、悲、哀、ガ、之、等、
純、真、ノ、人、若、キ、人、達、ニ、如何、ナル、感、激、ヲ、与、ヘ、タ、カ、ム、記、ス、ル、ニ、辭、ナ、カ、ナ、リ、テ、マ、ル、
艇、カ、被、間、ニ、消、エ、去、ル、ト、今、時、ニ、敵、偵、察、機、カ、某、地、ヲ、旋、回、飛、来、シ、タ、大、町、艇、團、長、ハ、本、島、
進、撃、計、画、挫、折、ス、ヤ、三、月、二、六、日、夕、谷、地、ニ、隊、長、外、各、中、隊、長、等、集、合、セ、タ、カ、十、一、艇、組、隊、

ヲ直チ沖艦作戦ニ連中スル事ヲ痛感シ之ヲ行揚ノ爲今晩ヲ期シ敵艦群ヲ突
破本島ニ歸任スルヲ決意ヲ披瀝セリタカシカ護送ニ當リテハニ定メカワタニ一葉ハ獲艦ヲ
以テ敵ノ自ヲガレ帰隊スルコトニハ特攻艦ヨリテテアタテ一過艦ヨリテ操縦ヲ操師カ
承知スル者ヲ得ナカク止ムナク特攻艦ニヨリテ事ニ當リテハニ操縦ノ人選ニ重大ノ意義持
コトニナクニ艦ハ皆本隊ノ軍揚トモテアタテ大町大佐ハ皆本隊ヨリ將校一名下士官
一名最モ優秀者ヲ選出スベキコトヲ命ジタカシ皆本隊隊長ハ赤松部隊長ト協議シ
中島一郎少尉及竹島伍長トヲ推挙シ本重大任務執行ノ任ヲ命ジタカシ正統本
中隊長ハ一郎ニ今回ノ重大任務執行ノ経緯ヲ話シ一郎ヲ指シテ他ニ其人無ク任務完
遂ヲ依頼セラレタカシ一郎ハ從容トシテ其ノ大任ヲ接受シ必ズ其ノ大任ヲ果スベキ事ヲ
誓フタカシ中隊ノ全員ハ壯行會ヲ開キ心ヨリ一郎ノ壯行ヲ祝福シタカシ少ナク日本酒ヲ傾ケテ
其ノ行ヲ盛ニシタカシ一郎ハニコニコシテ平常ト表スニコト行テタカシマズ明日晩ハ必ズ帰隊
御目ニ懸リマセウ何カ本島カラ御土産ヲモ持テ来シマスカラト云フ悟道ニ徹シテ挨拶
デアタテ午後十時整備員ニ依リ泛水ヲ行ヒ出発準備ハ完了シタカシ中隊全員ハ二人ノ
勇エラ見送ルベク浜辺ニ出テ御方ニ何か哀感スル暗信号ガアタテ皆本隊隊長ハ直チニ
火光ヲ滅スルコトヲ電話セラレタカシ十三夜ノ月ハ中隊ニ懸リテ居ルカ空ハ薄曇テアタテ
十分大町大佐ハ鈴木三池少佐ヲ下部員ヲ下部員ヲ下部員ニ乗リテ海辺ニ来リタカシ一郎ノ肩ヲタテ

「今晩ハニコニコシテ挨拶セリタカシ任務ハ御心配方通行致シタカシ一郎ハ返事ナク
自信シ言葉ヲアタテ軍中行李ハ當番兵ニ由文ニ軍曹ガ艦内ニ積込シタカシ本島ニ
陸揚シ大町大佐ノ部下トシテ働タカシ一郎ノ想セラレタカシアタテ十一時十分一艦艦ハ
大町大佐鈴木少佐山口中尉操縦トシテ一郎外ハ土肥技伍長ニ番艦ハ三池少佐
新海中尉木村少尉竹島伍長田中技士等兵ガ乗艦シタカシ大町大佐ハ「途甲方一遭
難ニコトアルモ兩艦ハ互ニ救助シ合ハシ一路那覇港指シテ直行スルコトヲ訓辭ヨリ
ハタテ十分赤松部隊長以下中隊全員ノ静寂ナル心ヨリ見送リテ受テタカシ兩艦
ハ島根ニ北進出航シタカシ航路ハ獲艦敷北方ヲ過リ儀志布島ヲ経テ針路
ヲ東ニシテ前島南方ヨリ那覇ニ向テ北東ニスルモアタテニ番艦ハ儀志布島南方ヲ
テ東方ニ変針直直運日燦撃ヲ破損ノ個所ニ急襲ヲ告航中中隊大佐ニ泛水故
障ヲ生シ航行不能ニ陥リ東組員必死ノ努力功ヲ沈没スルニ至タカシ三池少佐以下全員逃
泳シテ幸ウシテ獲艦敷島ニ歸着スルコトヲ得テ是等遭難ノ報ヲ得本隊ヨリ南
少尉以下若救護ノタカシ救護セラレタカシ一艦艦ハ事故ナクニ番艦ハ遭難ハ知ルモ互ニ救
助シ合ハシ命ニ從ヒ一路前進當時艦尾波ヲ五子前島南方ヲ航進ナリコトヲ認メタ
ノ事デアタテ一艦艦ハ途ニ故障ナシハニ十七時十分前二時頃ハ沖艦本島ニ着キ
アル本島艦船員一連絡スルモ大町隊長未ダ帰島セズノ事ヲ再度照會スルモ其

消息判明セズ特政艦ハ小舟ノ事ナク無事ノハ返置タ其ノ右ノ情報ヲ知ルヲ得ズ前
島南方ヲ那覇ニ向テ前進セシニ番艇遭難者ヨリ望見セルヲ最後トテ遂ニ其ノ消
息ヲ失フ列多クテハ那覇ニ於テ船団本部ニ於テ團長ノ消息不明ハ大ニ衝
動ヲ与ヘタ終ニ方途ヲ請ヒテ本島内ニ向テ論議神島前島並ニ其ノ附近ノ島嶼ハ
須臾等ヲ使用シテ終ニ捜査ヲ行タ然レ其ノ探査ハ何得ル所モナク消息ハ速ニ
入リテマタ

其ノ后ニ於テハ渡嘉敷島ハ敵ノ上陸スル所ナリ部隊ハ應戦スルモ既ニ力折シ矢盡キタルノ
状況ニシテ止ム方得令ニヨリ阿波連ニ渡嘉敷島等ニ基地ヲ築キテ谷間傳ニ北進北端
ノ留里加波ニ集合スルヲ概算トシテ糧秣兵器彈藥等キ防備ニ苦闘ヲ重クシ終
戦迄頑張り自ニ吾等武裝ヲ解除シ遂ニ戦閉ヲ終ルニ至タ此間戦死者ハ勿論糧
食ノ不足ニ依リ兵ハ次々ト散死シ其ノ三分ノ一ヲ失フニ至タ兵ニ名ニ名ニ九名戦病死ト外一
般従軍者七十名程ノ戦病死者有リトシ

終戦后ニ那覇部隊ハ沖繩本島ニ移駐セラレタ大町船団長以下ノ情況ヲ簡スニ答トシ判
明セズニ番艇ハ「ハ十一号」ノ記号艦ヨリ難破シテ破片ノ捜査ヲ行タル之亦発見スルニ
至ラズニテ遂ニ手ノ下ニ疎ガナク本島ニ於テハ大町船団長ニ対シ種々ナルテマカ飛ンダ
「大町大佐」ハ米軍ニ捕ハレテ南方ノグスマ島ニテ山下カ「洋」ニ無人島ニ漂着シロビンソン式ノ

生活ヲシテ山下カ「洋」ニ漂流シテ流布セシタ然レ当地前島附近ノ沖繩本島近ク百数隻ノ敵

艦ヲ遊オシテ居タ十三夜ノ月明ハ艇ヲモ艇尾波ヨリ発見セラレタルカ又ハ自前軍ニシテモ
気発火ノ直ニ電波探知機ニ感シテ敵艦遂ニ艦又ハ水雷艇ヨリテ襲撃セシニ全員壯烈ニ
戦死シ遂ニゲタルモト認定スル外ナク又然レバニテ敵艦ニモト思ハルハナシ

一部ノ遺品ハ軍用行李ヲ積ムニシテ事ヨリ粉物モナクタ當テ守品出発時特政隊ヲ編成
セルヤ隊員ハ皆遺棄ヲ船舶管理部ニ残タデマタ其時皆本中隊長ニ從ヒ部
長特政艦取リテ出航中ニ遺棄ヲ残ストナク早タトシテ守品ヲ出航シタ此皆本中隊長

ハ之等ノ事ヲ能ク知テ居タ中隊長ハ一部ノ心情ヲ憶ヒ且遺棄ノ事ヲ憶フ時痛心ナルモカ
ラズ彼ガ居座ヲ附近ニ花壇ヲ造タ其ノ中ニ眞白ナル小石ヲ発見シセシタ此ノ美
シキ小石ヲ遺棄トシテ遺族ニ届ケ中島少尉ノ書ヲ申シテ御厚情ニヨリ懇ニ慶良間列島

渡嘉敷島ノ海辺ヨリ御持参下サレタケアルニヨリ昔熊本野池水ノ自宅ヲ皆本中隊長ノ温
胸ニ抱カレテ懐カレテ故郷ノ帰ルコトガ出来タ一度戦場ニ出ヅレハ生還ヲ期セザル事ノ豫テ覚悟
シタ所ナリ且特政隊トシテ身モ心モ国家ニ捧ゲタ一部ノ事ヲアラタ然レ自前ニ安シタ

一部ノ帰還ヲ迎ヘタ吾等遺族ハ痛ハ哀惜ノ情禁ズルヲ得ナカク唯ニ合掌黙禱ヲ宜稿
ニ祈ルニシテ終戦后自ニ三日留里加波ノ山上ニ白旗揚ゲ全軍降伏ノ状ヲ示シ全島渡
嘉敷部隊ニ下ルニ於テ休戦降伏ノ協定ヲ下シ時既ニ武裝解除タ直ニ空閑米軍

本部、改陸間味島ニ半軍、船ヲ移轉シ自三十一日迄在島、三十一日沖港本島石川ト云フ部
港ニ着、三十一日七時發、百十日復員スル迄此地ニ滞在ス

三十一日、元寄本甲隊、小隊長アテテ一郎、同輩ヲマタ池田恒茂代リ一郎戦死存左、悔
状ガ送ラタヤ隊長甲生還者ハ池田少尉一人ノ様ナリ

神谷山ノ緑コト濃クナリ初夏ノ段々近キツクありすが敗戦ノ事定メ、御不自由な事
と存じます、小生事故申島君ト同甲隊ノ同小隊長トシ三名中、中武運ナク小生のみ
残り生き恥ぢらして居るも、御さいます故中島君ノ状況につきましては中隊長殿よ
リ所聞キノ事ト存じますが全く残念です、あの日青三台、夕刻僅カク酒にて乾杯し
「守守と来る後ヲ頼む」と云ひながら船団長を乗せて出立された願が目に浮かんで
来ます、あゝ残念です、此の仇、必ずくやらねばなりません

内地の冷たい風に會ふ度に君ノ死ガ惜しまれて存りませぬ
では皆々様ノ御多幸ヲを御祈リ致します
敬具

池田小隊長、復員ハ並木実君カラモ聞キ、皆本甲隊長カラモ聞イタ、池田少尉カラモ心遣
ノコモタ此ノ甚キ事ヲ頂キ感謝ニ堪ヘナイ、祭壇ニ供ヘタ、此ノ通信ハ、靈モ深キ感謝
以テ見ルコトデアラウ、池田サンハ直々返事ヲ出シタ

身上調査ニ関スル照會

昭和二十一年四月三日

陸軍留守業務部ヤ一調査課長 岡本重雄 中島

中島幸太郎 殿

裏面ノ者ニ関スル身上当部ニ於テ事務處理上必要ニ付、裏面調査事項ニ記入シ青三十九日
迄ニ当部ニ到着スル如ク送付相成度候也

本籍地、変更 崎玉縣入間郡金子村根岸三三三、官等級、見エ中島一郎 大正二十一年七月五日

本籍地、変更 変更ナシ ナシ

階級、相違進級年月日其階級

昭和二十一年十月十日附陸軍少尉ニ任官タリ通知アリ尚別記赤松部隊長
並皆本甲隊長短リノ通信ハ、故陸軍中尉中島一郎トアリタリ、尚兩隊
長リノ通信中、二月十日陸軍少尉ニ任官タリ、与不レ故確是ハ
思考ス、戦死ニ依ルタリ一階級ニ進ムタルモト思ヒ、尚本人ノタリ
勲者トテ申請スト、附書アリタリ

氏名、相違及其、変更 変更セルモノ新氏名及其、年月日 中島幸太郎
留守担当有現任所代名 埼玉縣入間郡金子村大字根岸三三三 中島幸太郎

最近ノ通信ヲ受領シタル年月日並ニ通信 沖繩那覇那覇郵便局行球二二七九部隊長本隊
部隊(通信発信年月日判明ナルモノ其年月日) 昭和二十一年十月五日頃発信、全三留受信

軍隊ヨリ送金(留守宅渡金)有與
以報歸留守業務部ヨリ傳給三〇年一月分迄有

買家ニ付と空軍内と本人ノ戦友ト官
其他ヨリ通信アリ其功簿部隊
代名及内容

昭和三年一月元禄五ノ元部隊長赤松兼次代元中隊長皆本
隊代ヨリ左記通信アリ
昭和三年三月十五日 岸邊 島良團列島特攻隊戦時觀察ニ付工兵
團長大野大佐兼島甲部隊全三ヨリ敵空襲開始ヨリ二十日大野
團長ハ危險面ヲ突破中島三部隊三ノ計画 中島一部ハ之カ
護送ノ任ヲ受ケ大野大佐 基地隊長鈴木五郎共ニ特攻艇ニ
ヨリ渡嘉志メヲ発シ二十七日の時三ノ分隊前島東北海面ニ於テ消息
不明トナル當時敵艦艇ノ状況ヨリ戦死トモト 認メラル得ザル
状況ナリトモ其左ノ情報ヲ得タス其筋ヲ於テ戦死確度ニ判
定スルコトハ部隊長ヨリ通知アリ

其他参考事項

備考 一 記載事項ハ具體的ニ記シテ下
二 不明トモハ其旨明記スルコト

三 内地ノ還送者又ハ帰還者ハ特ニ明記スルコト 参考欄ニ内地歸屬還送ノ日ヨリ記スルコト
二一五一 埼玉縣地方世話部長ヨリ九記照会アリタルヨリ村長証明ヲ得テ回答セリ
昭和三年五月一日 埼玉縣地方世話部長 印(印) 浦和市常盤町四ノ九三三

中島トシ子殿

拝啓揚唇ノ候留守宅カ各位ハ出征軍人軍屬ノ運カナル帰還ヲ念ジテ夫々ノ御家族ノ御
力ノ御事ニ推察仕候

坂本坂留守宅渡金事務部渡送世山ノ管領執事ノ爲テ手頭決定ノ資料ノ致し厚キに付テ
軍屬調査票ニ成ルル詳細ノ御記入ニ首肯留守宅渡金係ニ必着トシ如ク返信相
御願申上候

軍人軍屬調査票

本人 現所属部隊 官階
球一六七九部隊 陸軍少尉 中島一部 本籍地
愛領人 現在所 横濱市南郡金子村赤松兼次
中島トシ子 現在愛領日領

被養家族

他官廳他會社ニ在籍ノ借徒軍ニ付時ハ其官廳會社名 ナレ
石官廳會社等ヨリ本人ニ付借給等支給付時ハ其日額 ナレ
本人帰還又ハ戦病死セル時ハ其ノ年月日 昭和 年 月 日 復員戦病死
市町村長証明

右事項中本人カ未復員者ノ軍属ナルコト及受領ノ正当ナルコト並ニ被養家族面シ
相違ナラトシテ證明ス

昭和三十一年五月 日

金子打長加藤健藏 印

二一〇四 午後八時元一六七九部隊長赤松兼次氏突然来訪セ元三日加古川発四日朝
東京着午業務部 福毛、留守業務部ニ業務連絡ヲ出頭セリ大作、業務ヲ完了

荷物の福毛を残り池袋より佛子駅下車来訪せられた折柄根上久司代系訪中、森田全席
上當時、事対談、要ハ皆本中隊長話ノ通り、部隊長ヨリハ別ニ要ク話モナク、一時、半
就寝ス、六月廿日赤松代ハ、午前行キ、夕メ午前九時出立せし出立ニ際シ、靈前ニ香料ヲ
獻シ

二六九 皆本義博代町ヨリ口嚙口トテ製茶見立来訪セル、約三時間程工場見物
ノエタ刻帰宅モ、赤松部隊長来訪件、皆不代ニ話ス

二七〇 六月十日附赤松義博代ヨリ来、約、接撥状ニ書添ヒ左記、如ク報知セラシテ
御子息様ノ御消息、簡シ左記、如キ情報之有候モ、何モ早急ニ噂ノ過ズ、確実ナル
情報入手次第御知セ申上可候

終戦後某兵ニニ世通訳大町船回長知リ、ワ、マルヤトテ尋ネ、大町佐ハ、グム島ニシテ旨
話シ、先ト(此情報ハ武装解除直前、噂ヲ噂セラレリ)

船回副官(同東ニル、山守尉)屍体慶良間列島慶留岡島ニ漂着セリ止、以上
二七八、相模兵務管理部長勤務中、皆本義博代ハ、六月廿日未健康ヲ告シ、六月廿五日

系訪リ、七月早々帰国、一有程静養セル、予定ナル意向ヲ、更ニ山口縣徳山市在住
池田少尉ニ、早、其、右、押焼、状況、特ニ大町船回長消息不明問題、山口中尉屍体

漂着問題、簡シ調査ニ旨打合せアリ、其ノ結果ハ、詳報類ニシテ、約々七月八日、夏信

ハ之が報ヲ傳テ来々

(前文略) 帰郷途次、かねて御話申して居りました大町少尉以下五名、方消息を知り、神尾
が、一足、進出せし帰りました池田少尉(山口縣徳山市系来崎)池田植茂を訪収例の山口中
尉ニ、早々、其、右、押焼、状況、特ニ大町船回長消息不明問題、山口中尉屍体

漂着問題、簡シ調査ニ旨打合せアリ、其ノ結果ハ、詳報類ニシテ、約々七月八日、夏信

二七八、相模兵務管理部長勤務中、皆本義博代ハ、六月廿日未健康ヲ告シ、六月廿五日

系訪リ、七月早々帰国、一有程静養セル、予定ナル意向ヲ、更ニ山口縣徳山市在住

池田少尉ニ、早、其、右、押焼、状況、特ニ大町船回長消息不明問題、山口中尉屍体

漂着問題、簡シ調査ニ旨打合せアリ、其ノ結果ハ、詳報類ニシテ、約々七月八日、夏信

二七八、相模兵務管理部長勤務中、皆本義博代ハ、六月廿日未健康ヲ告シ、六月廿五日

系訪リ、七月早々帰国、一有程静養セル、予定ナル意向ヲ、更ニ山口縣徳山市在住

池田少尉ニ、早、其、右、押焼、状況、特ニ大町船回長消息不明問題、山口中尉屍体

漂着問題、簡シ調査ニ旨打合せアリ、其ノ結果ハ、詳報類ニシテ、約々七月八日、夏信

二七八、相模兵務管理部長勤務中、皆本義博代ハ、六月廿日未健康ヲ告シ、六月廿五日

系訪リ、七月早々帰国、一有程静養セル、予定ナル意向ヲ、更ニ山口縣徳山市在住

戦死せる死体は分散して漂流、而して山口中尉の死体が古場島に漂着したものと
思はれ、古場島は慶良間列島の最も西に位置する島で、これより西は入重垣列島に
到る間久米島(約四哩)が存在する、或は私の主観通りあるかも知れません。(以下略)

皆本中隊長の觀察へ前記通り前島附近に於て砲艦又ハ水雷艇かによる核銃射撃
ヲ受ケ、全員壯烈ナル戦死ヲ遂ゲラタモト認ムト云フ悲壯ナル觀察ヲウタヒ山口中尉、
屍体漂着ヲシテ遭難セルコトハ瞭ニシテ、更ニ如何ナル情報ヲ得テ得ルガ暫ク今
白ニシテ俟トスナレ

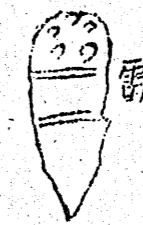
ニル、皆本義博代突然来訪、今代ハ復員后健康勝シヌトタメ、勤務中、兵器處理
部ヲ訪シ、元洲ノ実家ニ之月初メ帰國セシメタ、其際台野徳山市、池田少尉は其、后ノ理
ノ状ヲ述ベ、尚山口中尉ノ屍体カ古場島ニ於テ発見セラレタ件ハ、調査セラレ豫テ其ノ
報告ヲシテ本日報ニ来訪其ノ詳報ヲ伝ヘシタ

伊達慶徳南列島ニ於テ特攻艦隊ハ、カカ島ニ戦隊ヲシテハカカ島ニハ座間味島
ニカカ島(赤松隊)慶良間列島阿波連ニ駐屯シ居リ昭和三年三月、敵軍ノ上陸ニ際シ
国民学校員等ニ到ルマデ全島住民ヲ柳彈ヲ以テ内迫全員壯烈ナル全滅ヲナシタコトハマ
島ノカカ島隊長無電ヲ以テ報告シ、モハニテ終戦后、調査ハ、報道ニ過ラズリシ
判明シタ、事ヲシテ、カカ島ノ部隊員三名ガ敵軍占據下、カカ島脱出ヲ企テ、夜ニ

小舟ヲ古場島ニ運ビ、古場島ハ四方ニ絶壁ヲ東ニ一部僅カ、所砂浜ニテ上陸可
能ノ地アリ、脱出兵ハ此砂浜ヨリ上陸ノ慶海辺ニ於テ特攻艦隊ノ屍体ガ漂着シ居ルヲ発見シ、
ケタル認識票ヨリ山口中尉ナルコトヲ確認シ、此等脱出者三名ハ終戦后米軍ニ報告セラ
レ古場島ヨリ沖繩本島收容所ニ收容セシメ、其時ハ既ニ赤松部隊長以下皆本代モ復員
シ、昭和三年三月、頃テアタテ、赤松部隊員、池田少尉ハ殘留ナリ之等脱出者ハ
收容所ニ於テ古場島ニ於テ山口中尉屍体確認ノ件ヲ伝承シ、脱出者連ハ連日行
動ニ出デタル關係ヲ遠慮勝、陳述テアタテ、山口中尉ノ漂着セルコトハ相違ナシ事
實ヲアタテ、唯其ノ死因ガ溺死シカ銃彈ヨリモカ判然スルコトガ出来タカ、池田少尉
ハ五日復員シ、此旨赤松部隊長ニ報告シ、赤松代カラ報告ハ、此消息ヲ伝ヘタモ
テアル、尚皆本代ハ池田代ト対談シ、上野大佐一行ノ消息ヲ檢到シテ先日報面ニ依リ結
論ニ到達シ、ケガ遭難ノ位置ハ前島南海面ト想像セルモ、或ハ又敵艦ニ遭難
セシ古場島附近ニ於テ遭難セルヤモ不詳、三月二十七日午前、時當時海面ハ朝霧ニシテ
潮流ハヨリ古場島ニ漂着セルコトハ北ニ出デタルカ南ニ出デテ来リシモノモ不明ナルモ想像ハセ
ルモノモアル、唯死者五名ト假定シタ時、アト四名ノ屍体ガ何處ニ漂着セルヤ、今右ニ待タズ
ハナラズガ、或ハ亦山口中尉一人遭難セルヤモ不詳、艇東ニ配置シ、左図如クシテ山口中尉ガ
彈ヲ度クルト共ニ海中ニ転落セルモノト想像スルモノモ出来ル、而シテ般的ニ前島附近ニ於テ

員遭難セルモト認ルヨ常識トスギモデアル。尚冲绳本島ハ今尚山中ニ七百余名、
收容者アリ、以テル人ガ生存シ居ルモト思ヒルト、話デアラタ、但此七百名中大町大佐一行、
在ル事ハ考ヘラザル事勿論デアラ

土肥 大町大佐
鈴木大佐
山口 中島



ハノ島ノ記号ハ艇ノ兩側並ニ
船尾ニ白記シアリ

皆本代ハ九月二日朝五時三分出發六時三十分金子駛リ相模原ノ事務所ニ歸リタ
三九二ノ葉野福毛ノ留守業務部ニ行キ其ノ后情報探査ニ行ク大町船団長行方
不明事件ハ事務所員間ニ於テモ相当大ナル関心事ヲ部隊ニ送リテイルト事デアラタ
山口副官死体ヲ古場島ニ於テ発見件ハ所員間ニ於テモ知ラ居タルモ公式ニ名簿上
ニ確認シテ居ラ一部ハ「同性異人」山口氏ニ「アサカ」トノ話モアラタ戦死ノ公報ハ相当
余日アル針ノ事ヲ事新ニキ情報ヲ事得ル事ハナカタ、生存者名簿整理中氏名調
査ハ至難デアルト共ニ終戦前ノ氏名階級ハ異名ガ多クト事デアラタ、帰途オホ方面軍
(クリン方面)整理部ニ清水一郎氏ヲ訪問比留間勝治君、消息ヲ事ヌカ不詳目下
名簿ガ市川、本隊ニル島九月二日由右ニ至リ(比島飛送九九五部隊)五ニ飛行大隊(中復
員者ヲ調ベ之等入言ヲ本人ノ消息ヲ知ル外手配ノ方法ナリト事、萬事ヲ托シ帰
ルル、池田恒茂氏ヨリ来信アリ、中島少尉、消息存テハ中隊長(皆平氏)ニオ話者
通リズ、以テ何カ手懸リテモ、都合ニテ居ラヌガ、耳ヲ、話ハナリ、御遺族ニ対シテ會

甲親御座居マセン、敗戦ト云フ現象、前昨午、船東事考マスト會事、林、其中詳
細判明次第御報告申上ラヌマ

三、二、三、西南太平洋諸島及ヒリピン、復員ハ年来昭和三年(リ)ヲ以テ終了スル旨、新聞
ヲオデ報告セラレタ、大町船団長(ア)島(リ)ト、デマモ、如何ト、一纏、望リ以テ居ラ、
ハヨリ、復員船ハ十月二日及ニ留ト浦賀ニ港合島、復員完了、多量ヲ、本報、
マ一、復員ハ遂ニ絶望ニ終ラ、遺族ハ昔年六月二日、急死、葬儀ヲ、
マテ、日モ早ク、戦死ノ公報ヲ出シ、遺族ハ、ハ、考ヘ、タ、今日、
打合せ行テモ、ラ、業務部ニ於テモ、大町船団長ノ消息不明事件ハ、
ナカ、カ、ハ、副官死体確信ガ、マ、次第、公報ヲ出シ、手、
体、昭和三年六月古場島ニ於テ「ア」島ヨリ、脱出兵、
「ア」島ト、中尉、襟章、ライク、赤イ布、
尉ノ遺族(鹿島島)ニ、ライク、
告、類、脱出兵(鹿島島)ノ、柳本、
ニ、タルモ、認定、上、公報、出、ス、
推定ハ、三月、
世話部モ、連絡、上、急、速、ニ、取、
世、話、部、モ、連、絡、上、急、速、ニ、取、